

平成29年度 第4回 都市環境デザイン委員会議事概要

日時：平成29年10月13日（金）13：30から

場所：帯広市役所10階第2会議室

出席委員

武士澤委員長、藤平副委員長、青木委員、赤嶺委員、成田委員、紅葉委員

事務局

三津都市計画課長補佐、奥秋基本計画係長、齋藤主査、山崎主任、中鉢主任

議事概要

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議題

(1) 平成29年度 帯広市まちづくりデザイン賞の選考について

応募案件について各委員の総評・評価点をまとめ、以下のとおり選考しました。

《最優秀賞》北陸銀行 帯広支店

《優秀賞》ア・ラモード サントル店

【事務局】

今後、事務局において受賞決定後、報道機関、市のホームページで発表するほか、委員長、副委員長に出席いただき表彰式を行います。

(2) その他

今後のまちづくりデザイン賞のあり方について協議しました。

主な意見・質疑は次のとおりです。

【委員長】

今後のまちづくりデザイン賞の応募方法、賞の趣旨の説明のしかたなどについて協議し、来年度以降に反映したい。

【委員】

「まちづくりデザイン賞」という名称で募集しているが、まちづくりを意識した建築物の応募は少ない。まちづくりについて啓発するという賞の目的を実現するための方法を委員会で議論していきたい。ただ募集するだけでなく、どこを評価されて受賞に至ったかを周知するなどして、まちづくりをみんなで考えていきましょう、という姿勢を積極的に示していくことが必要だと思う。

例えば表彰式の時に応募者がスピーチする場を設けるとか、受賞物件について選考理由を記載したパンフレットを作って窓口で配布するなど、周知するのはどうか。

【委員】

広報紙に掲載することもよいと思う。

【委員】

まちづくりや景観を意識した建築物の応募を促すためには、応募の際に、例えば植栽計画の書類をつけるような応募要領にしておく、なども考えられるが、間口が狭まって応募が減ってしまうことにつながらないか懸念される。

【委員】

植栽については、最初は管理ができていても、その後管理できなくなると、植栽はないほうが良いという場合もある。植栽があって管理も続けることができるのが一番良い

が、なくても良好な景観形成は可能である。

【委員長】

植栽がないからといってまちづくりに貢献していないわけではない。植栽以外の方法でまちづくりに貢献している物件もあるので、そういう場合も評価に入れていかなければならない。

【委員】

建物の用途によって、植栽への考え方が違ってくる。また、メンテナンスの問題も出てくる。

【委員長】

選考理由の周知のしかたについて、どんな手法が考えられるか。

【事務局】

先ほど話があった広報紙については、今年度はページが限られているが、来年度以降に掲載することは考えられる。

また、表彰式に報道機関に来ていただき、選考理由を情報発信してもらうこともできる。

【委員】

募集時のポスターやちらしに、前年の受賞物件の選定理由も掲載して配布すると、応募しようとするときに、賞の趣旨が伝わるのではないか。

【委員】

「まちづくりデザイン賞」という名称がわかりづらい面もある。この名称を見て設計者の方などが自分に関係ある賞だと認識できるかどうか。募集を建築物に限定しているのであれば、名称に「建築」という言葉を入れるなどするとわかりやすいが、これは、単に優れた建物を募集しているかのような印象を与えてしまい、賞本来の目的が伝わりづらくなる、というまた別の議論が出てくると思う。

【委員】

「景観」という言葉を入れるだけでもわかりやすくなると思う。賞の名称を変えることは可能か。

【事務局】

可能であるが、過去にも今回のように委員会のなかで名称変更についてたくさん話し合った経緯があり、名称を変えることは、この賞が少しずつ定着しつつあるものをリセットすることになりかねない、という議論があった。

【委員長】

名称を変更することで出てくる問題点を事務局にまとめてもらい、次回の委員会でまた協議したい。

募集を建築物に限定していることについて意見はあるか。

【委員】

花壇などや市民活動に関する表彰は、他部署の委員会で行っているのですが、この委員会では建築物に限る、ということも良いのではないか。

【委員】

建築物に限定する必要はないと思うが、建築物以外にどんなものが応募できるか思い浮かばない。参考までに、過去に建築物以外で応募があったものをリストアップしてほしい。

【委員長】

応募要領の改正前は、看板や花壇、庭だけでも応募できる要領だったが、応募のほとんどが建築物であったため、建築物に限定した経緯がある。

【委員】

応募要領を、建築物に限定するがそれに付随する植栽なども総合的に評価する、というようなことがわかるものにすると良い。

【委員】

そうすると、建築部門と造園部門に分けなければいけないイメージになる。同じ土俵では審査しにくい。

【委員】

応募要領上は、植栽を評価してほしい人も、建物をみてほしいという人も応募してくるが、それぞれにあった審査項目について評価することとして、部門を分けなくて弾力を持たせてもいいと思う。

【委員】

特別賞もあるので、建物以外の部分で評価が高いもの等については、そちらを該当させると良いのでは。

【委員長】

今回、いろいろな意見が出そろったので、次回の委員会で検討し、まとめていきたい。

4 閉 会

以 上